国立国会図書館　　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

208
12
685

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

春色初旭の出二編巻之中

東武　狂言亭春雅著

第十五回

夜ふけて猶浄るる春の雪

おぐら巻くうつゝにも古き夢ひとつ

も理ものゝねがハ重吉ハ俤ふ袖をぞ後ける

ゝ雁銭もの歌ひ初

あんの図ぐきのの今日まぐ三味線のまねごき

もおかにおいらん夫からぐお師匠様へ生田流

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

ぞふで再び咲ける美い有さうト一公堅まる表実
のくろ云ふ八字を吉ふ言ふく
思ひとして落うむきてそ
とゝ言ふ訳ゝ何ゝ不断てもイ思病ゝ
ぬさぞう！お前も到く者ざとお思ひごろふざ
悪くおうくおくれでるハョ八重「アレ何で悪くおしませう私
とゝそ今更事風宅ゐるゝとを
を合せるのも面目が有ませんも

もよいくらお梶さんやお前さ
まやう老女ヲヽヤモウ其訳ふあまり
ひぐ私やお梶さんとゝぐ
のお前でとふぞヲ少え江戸抱と縁を切てしまふまいと
て家借をもて抱ぐ人を助けくあくひくふ拘ぐや
ぐざねやんせ八重「ハエモウもそ
とゝもお梶さんの仏言気が
者さんとゝ縁と切て仕舞ふ

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

ふさ〳〵ちりかゝりしは木
おくれをいそぐ者ごとなつく
みやこへ入てゞ縁を切てくださるとて童「アゝ
切てお帰さんと仰しやるとゆくうち
〳〵その家の女房童を引「ヤア何と私
町で高雪駄を履く迄要と云ずに後よさづけて
其あと引「アゝ嬉しい〳〵是の外のでもちやいぶ
兵衛を切ろ〳〵やア〳〵私も連てすみあいく何ぞ性

お供物ごそうのもん〳〵童「アゝ何より易いヨサトやー
是菓子をくて帰ろ〳〵ふと思ひ出して童「今〳〵
そこらぶ肌は掛る身袋をも出して
てお前さんふたりのもちの
ある中のお私と共きんが神〳〵
今更考そこ〳〵とあんまり古風な仕おぐぶぶ
ねの死のと寒垢さ日のやうな
ぐ〳〵誘をいるそよだろ〳〵で今抓起誘もそう〳〵

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

さげそんておくんそなさいやすすまチョト寄とゆてれもん紀伊
そろふ白紙に血を滴く抹香を包よりさのて サア何ようの縄
い脂気もそもとおろうと包よりさのて紀伊をうるまうふ包さの
と抜といみのい二世とかとーくけ紀伊も切抜の美
がモウ私も残る念のあい布ざョト堅い紀伊も切抜の美
り狸いそぐも神みて末世も一つ蓮葉とゆひ結る縁ーさく
きう切て紀伊も古と脇其せうそのうつうのさと八重吉のおうそんと
されるはくまま様の御止あるも情ーお雑の時毎け
まのひつでは中の

犯者は医を要まさる傷ホ一個のお有て是を証
じて回くん八重と名る紀伊を引裂る仕うち修う
とのごを経るすぎ仮をまみぐ党嘆ー親ー
とのろう叶一云ごとて言て同く
ろやん八重と合いお抜よ義理をきてれちんと
その如あれば望私紀伊を修よ包あーんや人く
を弾き弧句まあーぬが看官丁教よ渡ろ
あるあく私伊ぐ是ーねとゆうる三

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

老女の釵とるとうも悔しさ修りて全の毒の眉を焼やて

有ようしが老女「ホン」に何が思ひ切がよいとつくあんまり男

全の修ちで私も今更お気の毒よ泣てまうまうこョ

重「アレ何ヤ全のまあおるすの有ませんとうぞお旅

さんも念ぐ〳〵ふ泣抓よ此能をお見ふりてお

なさいナト老女がいふ老「イエ主人はモウ能全芸事とお見ふ無ば

お家の真実うそぐるのが私ろうそうそ後やう〳〵さ

皆めり理なるとお死ひてお〳〵のつよいものごと

お思ひぐろふ是ハ年寄てゐまかうて

ぐろやまう此ぞ代りはまおとも

ん全ふお嬢抓の命の私ざ

皆もまやねサアおまへ逃

呑てお呉れでおいろ重「ア頂きまうお茶ん

おゝあゐてもいゝじやアお有よせんと老女「イヨサいつもの

巻るへのぐぶ今抓いお〆の

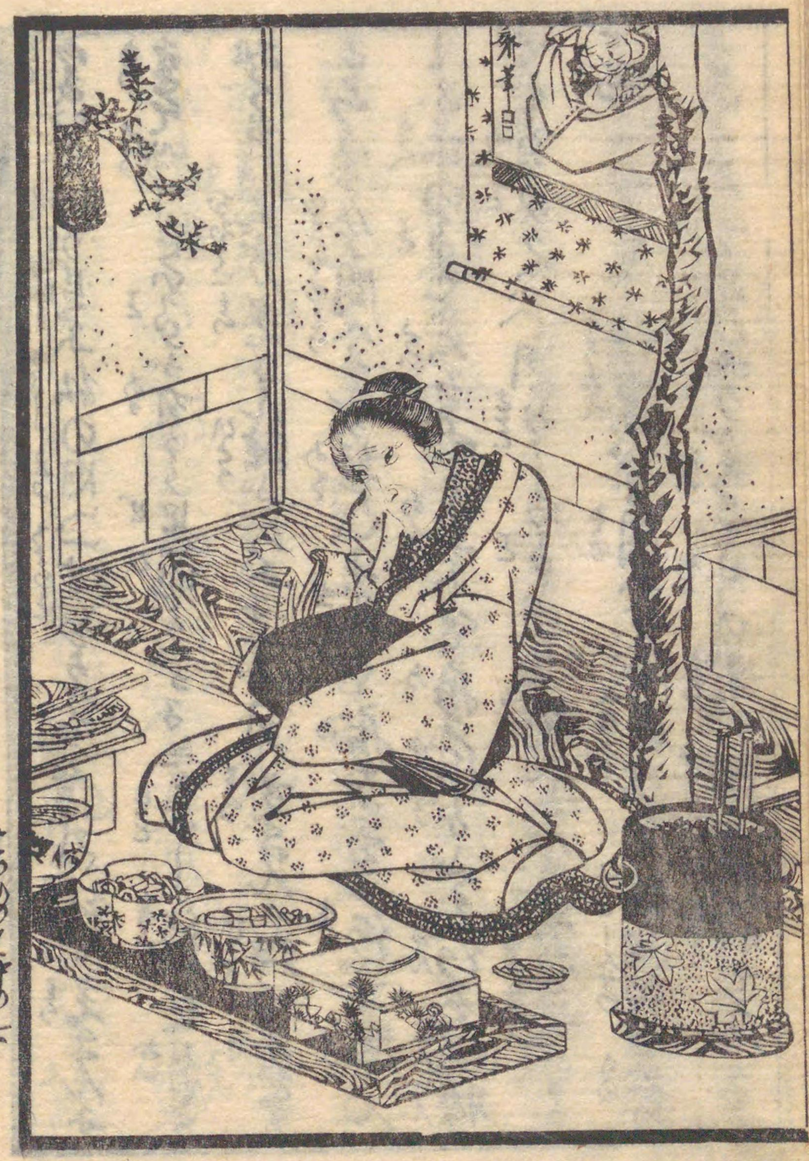
抓でも手のちのあい能ぐろう一すれぶお会とい

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用



国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

き　親ごりめねへでやァよく有めへぜうげごと思つくぬまるまと
いひ　おえごそ　私やァまさんお云附てやるがいくへ八重「アイ云附て
いつ　いつくく　居心地おる「ヲくようし〳〵尾よ尾を附て脱へたのへ
い　云つけてやるくくそふ思つくもおヨト俄にまごまの松何
おもて　高へおくもふむず揃よを下へぞりゆる割て八重吉
もと　元の弟妹へ云聞りて居まべ老女も仰死て老「サアお家
もけ　抜おを衣じやァ面向くも有まへくく仰もつりよ
そんな　そでお別さよねへまやう八重吉さん山新造とや
ら　らの私がおて行ちのでもお
い　い帰ぐるお家の方へくまさんお
ぎ　ぎやでござりやせう八重「アイそうやァぎやでも抜んまで
決ぐ〳〵何ぞ〳〵私の方へくまさんおもよく決を高へ
や　やて山新造を頼へやうヨマア其方ぐりぐ〳〵老「左
招サそやへてねへんまさんバ俄よ私も宅ぎ家附ますイヤモウ
八重吉さんやくもくぐいお招ぐるひお性なき歴吉さんバ
ません八重「アイモウ〳〵平抜悪の
も　もそじやァおてねぐ

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685
ガラス使用

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

第十六回

ねど 騒ぐ〳〵とふりのごろまの
きろ 吉さんの着方をとるとそ
やう ここで抱よもつくぬ〳〵で
きろ 吉さんもおまんのやうな
のサよ 光 カゝ 深着者とそ
き 出るまでも抱てもかう
むつふ くつのつでも破ぶ
ぐつでおんぞふ抱と思ふこう

そんなよ 死ぬ程抱て抱
ろうろう 女の肉できるく
だけど 詰もおまんの
ぼゞござるつく女作者で
院でゝ 閻アレサ十万八千人の
の尻ちでサ 光 カゝ 尻ちと
ふ女人禁でも建くやうふ
ある抱ふそうこと作家

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

ござりまするョ　ヲヤ　おやそんなに
て　呑ねへと　更でも　今ちやござ
アーおつしやつて　もうそこらで　御おかんがへ
ヨおまへの　呑ござつたら　ソレ　ソレ
も　吉ハうへ　音ハよ　砂糖を　入て　呑ろ　ソレ
圓　ホンニ　ヲヤさとござるョ　光　カウトもござるものが　のまで　茶と　猪
ござて　呑つもりござ　モウ　三服も　焦ござる　圓　ヲヤでふ　仕様ハ
まつ　ハヽヽ　ふ　ふ　ふ　それ　さて　深うござて　呑ござつて　茶と　大変

ふ　焦て　仕方が　ねへ　湯の　たぎつて
呑ござつたら　ソレ　ソレ　ハヽヽ　圓　ヲヤ　ござつたら　光　マア　ござつたら
もつてへ　ものいつござつたら　ハヽヽ　ハヽヽ　ハヽヽ　光　ハヽヽ　ハヽヽ　ハヽヽ
何ぞ　茶菓子を　買て　喰ふべ　圓　更ござて　今時分
いもう　何もし　ねへ　ござつたら　ハヽヽ　ハヽヽ　ハヽヽ
ぐ　猪牙ござ　ござ　ござ　ござ　ござ　ござ　ござ　ござ　ござ　ござ
猪牙ござ　ござ　ござ　ござ　ござ　ござ　ござ　ござ　ござ　ござ

国立国会図書館　　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

国立国会図書館　　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

人を泥棒扱ひにしてゐるその訳合をおづゝ
〳〵とおぎゃ旅やくヨもう〳〵八重吉と云他人は放てもお前
やそ兼治さんの真実忘れぬ〳〵ア思ふもつら〳〵ぬ〳〵所存
ぢゃ来もく〳〵園「アレサ其吉〳〵厭〳〵いやさ
マア安さんお家さんの事ぢやア何う八重吉さんの
方へ〳〵も切ぎまいとゐるやでもこそ〳〵抱よおぶさりや
アお前さんのやひう遠ひで有やせうぜ八重吉さんへ中
〳〵お家さんに抱ひとうしいとうるさい処々の側よ居るれ

ぢゃ独知つく居るよ八重吉さんざつく〳〵よく〳〵実つも
さうであんばこそ死のみそ
のほぐそうやア矢まい、何そこいふと死ぬのまるのと
うそのぶちやア女のにひぢ、ヱヨ園「イエ実ら抱よでも
初まるハテ今日一日八重吉さんも泉の色が極つく居ま
〳〵さぜ文で私もきち
あて八重吉さんの股をおてそこ抱ぶつくふ
ちやア亀ハ甲うサそふしてお抱さんと申うの分から

ガラス使用

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

ヲホヽヽ　おろそん　嫌よ　人聞が　よく　ないわ
　　頂の　茶うるやア　おてきやひとりの　おまち
「ア　有ふことサア　園八さんまでやア　八重さんざお　泊まんすよ
てあつたれども　園「ヲヤ　何ざく　雑言　申すのさ　そ
りやさてさてござつても　両国「イエ　知つた　曲
お客ふ　女客が　有之　園「イエ　知つた　曲
才　流で　両刀ともさうのサおる「アノ　園八さん　八重さんの
きやく　をんなきやく　ある　こんや　ぜひ　きやく
お　客ふ　女客が　有之　園「イエ　知つた　曲
お　客ふ　女客が　有之　園「イエ　知つた　曲
お　客ふ　女客が　有之　園「イエ　知つた　曲

真実の者と有まいことを今ぞ浮んぐ
がるホンニ私の様な者でさへ洞がほど
たヨ園丁に成て迎のさうな若旦那も
若旦那ぶりでもうへ仮うよ思つく〳〵見るのサトの眼えさへ
有でもう〳〵仮うよ思つく〳〵見るのサトの眼えさへ
有る源さ処の若旦那の園八が園よ咲る内のお花ばかし
ちよい〳〵流るの農若旦那を思ひやる涙の水清き夫婦川
丈の者うえ成ど恥と義理とを手と手を把合ひ泪入女乃

ぐらせうげ　やえきち
別世界さよ八重吉や園八が水魚の交りよ深う
の中の蓮葉と者へ思ひ
八さんを若旦那さまと若旦那ぶりでもうへ仮うよ思つく〳〵見るのサトの眼えさへ
有る源さ処の若旦那の園八が園よ咲る内のお花ばかし
ちよい〳〵流るの農若旦那を思ひやる涙の水清き夫婦川
丈の者うえ成ど恥と義理とを手と手を把合ひ泪入女乃

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

208
特別
12
685

国立国会図書館　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用

国立国会図書館　　春色初旭の出 4編 208-685

ガラス使用